



- 会長/矢島 進
- 副会長/山岸邦太郎・北澤洋之介
- 幹事/林 尚孝
- R 情報(会報)委員長/佐伯克己

- 事務所/岡谷市中央町 1-4-1・Tel/0266-22-6939・Fax/0266-23-6939
URL:okayarc.org・Email:okayarc@bz04.plala.or.jp
- 例 会/毎週火曜日 PM12:30 ホテル岡谷

第 2822 回例会 2018 年 (平成 30 年) 2 月 20 日(火)

点 鐘 : 矢島 進 司 会 : 宮坂晃介
斉 唱 : それでこそロータリー
ラッキーNo : NO. 1 矢島 進
結 婚 祝 : 中村文明

会長挨拶

日本中がハラハラ、ドキドキ、涙涙の冬季オリンピック。ここにきて、盛り上がってきたのは、羽生選手に続き小平選手の金メダルのお蔭とと思います。特に私達地元の誇りである小平選手は 3 度目にして 36 秒 94 オリンピックレコードで悲願の夢を達成しました。

世界で一番の実力があっても金メダルを取れる保証のないオリンピック。なんといっても 4 年に一度というタイミングにコンディション合わせることは大変なことだと思います。

20 代後半で引退も考える選手も多い中、小平選手はソチオリンピック後に 2 年間オランダに単身で渡り基本を見直し、栄養学、解剖学等さまざまな経験と学びを駆使し、肉体と意志と知性の資質を高めて、融合させることで強さを増していったようです。また、常に人より遠回りをしているような人生の選び方をしているので、まだまだいけるという思いもあったとのこと。どんな状況でも自分の可能性を追い求める小平選手は「与えられるものは有限、自ら求めるものは無限」と金メダリストらしい明言を残しました。

今回の平昌オリンピックでは小平選手、羽生選手の活躍に開催国の韓国、ロシア、中国等各国からも応援や称賛をもらい、選手同士も国籍に関係なく、お互いをリスペクトしあっている姿は、オリンピックの目的とされる世界平和の維持と確立につながると思います。

2 年後の東京オリンピックでは政治色は影を潜め、RC の 4 つのテストの如く選手はもとより皆に公平で国境を越えて好意と友情を深められる、真の「平和の祭典」となるよう願っております。



卓話「希望の星を創ろう」

社会福祉法人エリア創星会
理事長 清水直樹様

本日はお招きいただきまして誠にありがとうございます。本日は「希望の星を創ろう」ということで、希望の星とはエリア創星会のことです。エリア創星会の設立から現在、この先どういふものを目指していくのかをお話しさせていただきます。

私は福祉に携わるようになってからまだ 3 年しか経っていません。きっかけは私の子供が障害を持って産まれてきたことです。産まれて 2 週間後の検診で、染色体の写真を見せられダウン症であることを告げられました。悲しみよりも絶望感しかありませんでした。生きる気力もなく辛い毎日でしたが、時間が過ぎるうちに少しずつ落ち着いてきました。この辛い期間が今の福祉事業をやるきっかけとなりました。どこに相談していいのか、どうやって生きていけばいいのか、何を頼りにしていいのか全く分からず、暗闇の中を歩いている状況だったのです。しかし徐々に普通の生活が送れるようになり、明るく社交的な性格の妻は、翌年からサポートグループの世話人になりました。私も福祉の道に進みたいと考えていました。自分が経験してきたことなので、同じ境遇の人たちを支えたいという気持ちからです。今は出生前診断で染色体異常の出生率は減りましたが、発達障害などは産まれてからでないと分かりません。社会に障害者を受け入れる施設があれば、障害を負うことは怖くないんだよということを伝えてあげて実践していきたいと思っています。

私は 2012 年にそれまでの仕事を全部辞め、福祉事業をやることにしました。翌年、福祉事業を始めるための準備委員会を立ち上げました。なぜ準備委員会かというと、福祉事業の中でも最高級の格を持った社会福祉法人で始めたいという思いがあったからです。社会福祉法人の設立が大変なのは分かっていたので、様々な壁にぶつかり途中もう無理なんじゃないかと思うこともあり、だったら社会福祉法人設立を自分のライフワークにして死ぬまでに創るようにしようと思うことにしました。

結果的には 2 年で認可を得ることができました。今は規制緩和により福祉事業はどんな形態でもできます。多くの方は NPO から始めています。障害者福祉の基本的な考えは「ノーマライゼーション」といってノーマルな状態に戻すということです。障害者福祉事業でいうと施設から地域に戻すというのが基本的な流れです。日本では浅野史郎さんという方が厚労省在職中にノーマライゼーションを強く推し進めました。今では、山間に世間から隔離されたようにあった障害者入所施設が解体されてきています。地域に戻って家族と一緒に暮らし、昼間は簡単な仕事をして地域で何かひとつ役割を持って生きていくという流れなので、障害者福祉では入所施設はできません。NPO ではできないが社会福祉法人ならできることが入所施設なのです。障害者福祉事業は社会福祉法人の認可を受ける必要性はなかったのに県に申請してもなかなか受け入れてもらえませんでした。社会福祉法人で高齢者福祉をやりたいと言えば県も納得なのですが、私は障害者へ質の高いサービスを、10 年や 20 年でなく 100 年 200 年といった単位で地域に根ざした社会福祉法人を創りたいとアピールし続け県を説得してきました。

2015 年 2 月に「社会福祉法人エリア創星会」として認可が下りました。

まず始めたのは放課後等デイサービス「**ロンド岡谷**」を創りました。小学生から高校生ま

でのお子さんの放課後や休日の支援をする事業所です。

次に「工房エリア下諏訪」を創りました。これは高校卒業後の大人が通う、就労移行(就職につながるための訓練)と、就労継続B型多機能型(アルバイト契約で仕事をする)事業所です。パンを作ったり、企業さんから簡単な仕事をいただいています。時給としては150円くらいです。(県の平均は80円くらい)

そして、2月に湊に「みなとスクエア」という障害者と高齢者の複合型事業所を創りました。30年度は介護保険と障害者総合支援法がリンクして共生型サービスに移行していきます。ひとつの施設で兼務できるのです。さらに今後「みなとスクエア」は地域に開放して“子ども食堂”もやってみたいと考えています。貧困対策や個食、居場所がない、そんな子ども達や、地域の方、障害者の余暇利用など色々な形でやっていきたいと思っています。今はまだインフォーマルな状況ですので、ぜひ岡谷RCの皆様にもご協力いただけたらと思います。また、4月から多機能型事業所を中央町で始めますが、仕事がなかなか見つからないのです。障害者施設に出してもいい内職のような仕事があれば、ご協力をお願いします。

最後に、私は介護の世界に携わり、自分のやりたいことをやり、少しでも地域の障害者福祉のためになれるよう、残りの人生を捧げたいと思います。今後とも、障害者福祉、高齢者福祉、社会福祉、地域福祉にご理解をいただき、ご協力をお願いいたします。

本日はありがとうございました。

ニコニコボックス

山岸邦太郎 創業月ですので。

山岡俊幸 創業月です。創業53年目になります。毎年毎年、日々の積み重ねですので頑張ります。

守屋麻里 先週はバレンタインでした。少しばかりですが。

中村文明 ALL 信州産くるみのくるみやまびこ「蒼銘」今日から販売です。よろしくをお願いします。

大橋正明・佐伯克己・瀬戸雅三・竹村一幸・中嶋孝一・濱 俊弘・林広一郎・林 尚孝・林 裕彦・林 靖高・宮坂 伸・宮澤由己・矢島 進・矢島 實・山崎典夫
チョコレートありがとうございます。

牛山幸一・梅垣和彦・小口 隆・笠原新太郎・上條英雄・北澤洋之介・薩摩 建・林広一郎・宮坂晃介・矢島 進・山岸邦太郎・山岡俊幸 社会福祉法人エリア創星
会理事長 清水直樹様 卓話宜しくをお願いいたします。

出席報告

会員数40名、出席者28名、出席率75.0%、前々回訂正92.5%

2017-2018

岡谷ロータリークラブテーマ

『楽しく奉仕の輪を広げよう』



2017-2018年度RIテーマ
ロータリー:変化をもたらす
ROTARY: MAKING A DIFFERENCE



ロータリー:
変化をもたらす